

# 授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 レポート指導		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 海津 庄平	実務経験	精神科の病院に 10 年ほど勤務。臨床心理士として主にカウンセリング・心理検査を実施	
高橋 洋美	実務経験	施設相談員 3 年、歯科衛生士として 3 年勤務	
授業の回数 105回	時間数 (単位数) 210 時間 (7 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・ 社会福祉士を目指す学生のレポートとしてふさわしい内容に仕上げる。			
[授業全体の内容の概要] ・ 計画に従ってレポートの完成を目指す。 ・ 不明な点は調べたり教員に質問したりして進めていく。 ・ 自分の考えを確立していく。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標) ] ・ 提出期限内に提出し、大学の担当者から合格の評価を得る。 ・ 自分なりの考えをもち、それを自分の言葉で表現できる。 ・ 課題に求められた内容を理解してまとめることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1～105 ・ 各人の計画に従ってレポートを完成させる。 ・ まとめ方等、困っている場合、相談に乗る。 ・ 完成後、以下の観点でレポートを添削指導する。 ①決められた書式になっているか ②誤字脱字の有無 ③教科書や参考文献の提示の有無 ④内容の妥当性 ・ 課題に沿った内容か ・ 自分の言葉で表現できているか ・ 論理的に順序良く構成しているか			
[使用テキスト・参考文献]		各レポートに指定あり	
[単位認定の方法及び基準]		・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. レポートの評価項目の点数を合計し 60 点以上 主題提示 (40 点) 構成 (30 点) 表現 (15 点) 用字 (15 点)	

# 授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 社会福祉援助技術演習Ⅱ		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 川本 公代		実務経験 訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター18年	
授業の回数 16回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・これまで学んできた理論を基に専門職として実際の援助場面で活用していくためのスキルを主体的に学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・他者と関わりながら、自己覚知から自己理解・他者理解へ到達し、相談援助者にふさわしい資質を向上させる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・演習における自己の観察から自己覚知しそれを文章化することができる。 ・言語的・非言語的コミュニケーションそれぞれの特性を知り他者の理解を深める。 ・事例をもとにストレングスやエンパワメントの視点で人と関わるができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. 自己理解と他者理解 2. 共感の意味と深さ 3. 価値観の違い 4. 言語的コミュニケーション・非言語的 コミュニケーション 5. ソーシャルワークの価値 6. ソーシャルワークの倫理 7. 記録技法 8. アセスメント		9. プランニング 10. ケースカンファレンス 11. 効果と評価測定 12. コミュニティワークのプロセス1 13. コミュニティワークのプロセス2 14. 人と環境の相互作用 15. 受容の意味 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		ソーシャルワーク演習ワークブック (株) みらい	
[単位認定の方法及び基準]		・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 査査点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(15%) ・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%) ・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。	

# 授 業 概 要

(社会福祉専攻科)

授業科目名 社会福祉援助技術論Ⅱ		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )		
授業担当者 川本 公代		実務経験	訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター19年	
授業の回数 16回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助の展開過程を順序立てて理解しそのポイントを把握する</li> <li>・ 利用者との信頼関係の構築の方法と必要な技術を学ぶ</li> <li>・ さまざまなアプローチ方法を知りその特徴を捉える</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助の展開過程における専門職としての役割を理解する</li> <li>・ 相談援助とアプローチ法との関係を理解する</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助の展開過程のそれぞれの段階の重要点を説明することができる</li> <li>・ 傾聴の意味を説明できて面接技術のポイントを実際に示すことができる</li> <li>・ アプローチ法を具体的に説明できる</li> </ul>				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)				
1. 相談援助の展開過程①ニーズ発見～インテーク (かかわり技法)		7. グループを活用した相談援助		
2. 相談援助の展開過程②インテーク～アセスメント (エコマップ)		8. さまざまな実践モデルとアプローチ① 9. さまざまな実践モデルとアプローチ②		
3. 相談援助の展開過程③アセスメント～プランニング		10. さまざまな実践モデルとアプローチ③		
4. 相談援助の展開過程④アセスメント～エバリュエーション		11. スーパービジョンとコンサルテーション		
5. 面接技術 (DVD)		12. 相談援助における個人情報の保護		
6. 面接技術		13. 相談援助の実際 事例		
		14. 相談援助の実際 事例		
		15. 相談援助の実際 事例		
		16. 期末考査		
[使用テキスト・参考文献]		相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ 中央法規		
[単位認定の方法及び基準]		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</li> <li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・ 提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ul>		

